

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 082	提案機関名 畜産技術センター
要望問題名 密閉縦型発酵装置からの熱回収技術を利用した牛ふんの省エネルギー堆肥化技術	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 養豚や養鶏経営では発生する畜ふん等家畜排せつ物（固分）は施設面積や臭気抑制面から密閉縦型発酵装置の利用が多い、しかし乳牛ふんの場合、単位重量あたりの発酵熱量に不足することから密閉縦型発酵装置を利用する場合は油分を多く含む白土等の補助資材を利用し、不足する熱量を補う必要があった。今回貴センターで実証した密閉縦型発酵装置からの熱回収・利用技術を応用し、乳牛ふんを密閉縦型発酵装置で堆肥化することの可能性についてご検討願いたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画経営課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 温風送風が堆肥化处理に与える影響の検討 (H25～28)			
対応の内容等 牛ふんを密閉縦型発酵装置で処理する場合、熱量を補うために白土等の補助資材を利用しているが、これに代わる熱源として、装置から放出している堆肥発酵熱を回収して熱のみを装置に返送することができれば、白土の使用量を削減できる可能性があります。 平成28年度までに行った当所の密閉縦型発酵装置での熱返送試験（鶏ふん・豚ふん処理、熱交換器利用）では、冬場の入気ヒーターの代替としての可能性が示唆されておりますので、参考にさせていただきたい。 また、栃木県で乳牛ふん尿スラリーを白土を利用したうえで密閉縦型発酵装置で処理し、熱交換器による熱返送でコストを抑えている事例がありますので、情報提供いたします。 このほか、現在当所が参画している他研究機関とのコンソーシアム研究の中で、別機関により豚ふんの密閉縦型発酵装置での熱返送に関する試験も行われておりますので、情報収集・提供に努めるとともに、必要に応じて現地対応させていただきます。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			